

はばた
海外に翔いた子どもたちが
その翼を次へつなぐシンポジウム

第2回 Support Our Kidsリユニオン in 東北福祉大学

HABATAKI・翔

実施報告書



2013年12月
Support Our Kids実行委員会

開催趣旨／HABATAKIとは

【開催趣旨】

本日は、第2回 Support Our Kids リユニオン～翔・HABATAKI～にご参加頂き、誠にありがとうございます。また、今日まで弊会及び子ども達に、温かいお気持ちをお寄せ頂きました皆様に改めて心より感謝申し上げます。

さて、弊会では、次頁にもございます通り、被災した子どもたちの継続的な自立支援を目的に、多くの共感者、支援者の皆様方と手を携え、様々な活動に取り組んで参りました。

本会は、2011年より、ニュージーランド、イギリス、アメリカ、フランス、アイルランド、カナダのホームステイを経験した生徒159名、来春、アメリカホームステイに参加予定の生徒22名、また弊会と志を同じく活動する3.11.塾で海外経験をした子ども達が、その経験について、今後の人生について、故郷東北について、想いを共有し合い、郷土の復興に向け、絆を深める会でございます。

今年は、東北福祉大学様のご理解を頂き、素晴らしい会場をご提供頂きました。本日、発表いただく生徒の皆さんには、海外に出て感動したこと、嬉しかったこと、悔しかったことなど素直な想いを精一杯、語って頂ければと思います。また、10月には、帰国した皆さんからの提案で、復興案をまとめる研修を行い、今日はその発表もあると聞いています。私は、残念ながら公務の都合で会場に伺えませんが、ニュージーランドから皆さんの発表を応援しています。支援者の皆様におかれましては、是非、子ども達の心の声、想いを受け止めて頂き、引き続き励ましを頂けますと幸いです。

本日のリユニオンが、皆様の“HABATAKI”の後押しとなり、新しい心の架け橋が生まれることを願っています。

2013年12月22日
Support Our Kids実行委員会
名誉会長 イアン・ケネディ
(前駐日ニュージーランド大使館 特命全権大使)

【HABATAKIとは】

昨年のリユニオンで、“この会を、子ども達の・子ども達による・子ども達の為の会に育てていきたい”という思いから、会の新名称を子ども達から募集。「私たちは、支援のおかげで“はばたく”ことができた。今後は、自分たちの力ではばたいて恩返しをしていきたい。」という伊藤早希さんの思いが共感を集め、本会の名称が「リユニオン～翔・HABATAKI～」に決定しました。



概要／プログラム

【概要】

日 時：2013年12月22日（日）13:00～18:00
会 場：東北福祉大学 けやきホール
主 催：Support Our Kids実行委員会
共 催：3.11塾 / 特別協力：東北福祉大学
参 加：200名



【プログラム】

12:30 開場・受付

13:00 開会 / 司会：秋沢淳子（TBSアナウンサー）

・主催、共催者挨拶

秋澤志篤（Support Our Kids実行委員会 事務局長）

三枝成彰（3.11.塾会長／作曲家）



13:30 第1部 HABATAKIシンポジウム

・代表者スピーチ

「海外ホームステイを経験して」



15:00 第2部 HABATAKIシンポジウム

・HABATAKI PROJECTトークライブ

「私たちが考える復興」



16:00 X'mas Special LIVE

・アレキサンダー・ラボルデ・パドロン（キューバ）

・ローランド・スペック（キューバ）

16:30 閉会（181ホールへ移動）

16:50 懇親会

18:00 閉会



HABATAKIシンポジウム① 海外経験発表

「海外ホームステイを経験して」をテーマに、異文化に触れた驚き、喜び、悔しさ、そして支援への感謝などについて、今年、アイルランド、アメリカ、ニュージーランド



菅原 渉 (宮城県高3)

震災についてプレゼンをしたことが大きな経験になったと思いました。プレゼンをつくるときに自分は被災地にいるのに、案外被災地のことを知らないことに気付きました。このプレゼン作りを通して、改めて震災と向き合い、当時のことや今のことをする良い機会になったと思います。アメリカに行ってから、何回かプレゼンをする機会がありましたが、どこでプレゼンをして、現地の人たちはみんなまじめに聞いてくれて、プレゼンが終わった後には必ず質問を受けました。質問をもったら必ず自分から聞き、解決していったり、自分の意見をいったりするところが日本人の内気な性格とは違うなと思った点でした。



奥山 瑠捺 (宮城県高3)

(ホームステイの) 2週間の間で“決意したこと”“将来の夢”“自分を変えさせてくれた出来事”の話がたくさんしました。その中で私は自分の夢を明確にすることができました。“海外で日本語教育に携わる仕事をしたい”日本で学校の先生になれればそれでいいと思っていたけれど、世界の人と日本語という言語で繋がり、たくさんの人と出会うことができたら、もっともっと自分自身が成長できるのではないかと思います。改めて将来の夢について考えることができました。私たちの知らないところでたくさんの方々が私たちを支援してくださっています。プロジェクトの輪がもっともっと広がるよう、私自身もこれからSOKに貢献できるようになりたいと思っています。



半澤 悠音 (福島県高2)

変わることが出来た大きな出来事の1つは、ルマン24時間耐久レースの観戦です。最も印象強かった事は、1991年の優勝カーのマツダ787Bのコックピットに乗らせて頂いた事です。実際に約時速300kmで走っていたマシンのシートに座らせて頂いた時は、ドキドキが止まりませんでした。マシンを開発したエンジニアさんやそのマシンをレースで運転するレーサーの熱意が体に伝わってくるように思えました。(中略) 1つの夢に向かう為にはとてつもない努力が必要で、努力を持続するには諦めない心が必要です。私はそれを自分の夢を実現し今も尚進み続けている、寺田さんやマツダのエンジニアの方々から学びました。

HABATAKIシンポジウム① 海外経験発表

カナダ、フランスでホームステイを経験した85名を代表し、6名がスピーチ。「この経験を夢に活かしたい」「次は自分が復興に参加したい」と力強く宣言してくれました。



半田 直輝（宮城県高1）

ホームステイする前は人の目を見て話すのが恥ずかしく、自分自身の話にも自信が無いため出来るだけ目ではなく前を向きつつも他のところを自然と無意識のうちに見て人と話していました。NZに行ってみて言葉の壁はあっても、話す相手の目をしっかりと見て気持ちを込めて接すれば自分の心情がよりの確に伝えることができるのではないかと感じたため日本に帰ってきてからはそこに気を配っています。もう一つ、自分なりにできるだけ相手の気持ちになって接してあげてことを心がけています。NZの方々は何の人に気配りができ、自分がされたら嬉しいこと、裏返すと相手がされて嬉しいことを考えながら生活していると僕は感じました。相手が伝えたいのに伝えることができない気持ちや思いを感じ取れる人になりたいです。



涌井 悠里（新潟県高3）

私は平成23年3月12日に発生した長野県北部地震で被災しました。この地震で家をなくし現在は別の場所に家を建て、そこに住んでいます。アイルランドでの研修は私の意識や生活に大きな変化をもたらしました。ひとつは学校での生徒会活動に参加した事です。内向的で不器用な私には向かないと思い今まで避けてきた道でした。気持ちが変わったのはアイルランド現首相のケニー首相や安倍首相、Googleヨーロッパ本社の方々などトップで働く素晴らしい方々に会った事が良い刺激となったからです。チームで協力してものを作る充実感や夢に向かって突き進む人たちの格好よさを肌で感じ良い意味で大きなショックを受けました。私なりに努力して仲間と協力し合い一つのものを作り上げていくことの楽しさと充実感を感じていければと思います。



（宮城県高3）

今回の体験ではカナダの日系の方々からの多大な支援があり、その方々との交流の機会が多くあり、お話を聞くことができました。戦時、日本からカナダへ渡り、大変な思いをしながらも努力し現在新しい地位を手に入れた日系人がマイナスの状況からどんどん地位を確立していった様子は、大震災で被害を受けた私たちにもあてはめて考えることができます。あきらめないで、今より良い状況に変わることを信じて毎日過ごしていればいつかプラスの状況に変わっていくはずだと思います。そしてその方たちからは何事も1歩踏み出して挑戦してみることが大事だと教わりました。チャンスに積極的に、恐れずに取り組んでみることを。カナダから帰ってきた今でも、チャレンジすることを忘れずに毎日を過ごすようにしています。

HABATAKIシンポジウム② 復興案発表

2013年秋。海外から帰国した子どもたちから、「次は、私たちが支援をしたい」と声が上がリ、「海外・復興」をテーマに「復興」について考える「HABATAKI研修」が行われました。結果、子どもたちから、8つの復興案が提案され、リユニオンの舞台上でプレゼンテーションを行いました。



後藤 雅陽（宮城県中2）

「僕たち『世界情報発信局』のプロジェクトテーマは、日本について、海外について興味を持ってもらえるような発信をしようということです。実際に同年代の人たちに、国際協力に興味があるかと聞いてみるとみんな必ず、興味をもっていると答えてくれるが実際にホームステイに行ってみないか、サポートアワーキッズのホームステイに参加して人生の見方を変えてみないかという、みんな必ず「僕はいいよ」「私はそんなにたいしたことはできないから」と答える。どうしてそう思うのか僕たちは考え、海外の文化について偏見があるからではという結論に至りました。その偏見を少しずつ無くしていこう、文化の違いについてちきっと理解してもらい、知ってもらおうということを通して話していきたいと思っています。最終的には国際的な交流・・・例えば留学やワーキングホリデーで働いてみるなどをしてほしい、ということを通してこのプロジェクトを進行していきたいと思っています。」



小川 真季（福島県中3）

「私たちが行うプロジェクトテーマは『本づくり』です。名付けて『HABATAKIブックプロジェクト』です。7年後には東京オリンピックが来ます。東京オリンピックの選手村でこの本を置いてもらえれば幸いです。また翻訳されたものを世界に発信したいと思います。今日までの活動で決めたことがあります。それは、本の表紙と帯とタイトルです。タイトルは「あなたに知ってほしいこと」カバーに“ネバーギブアップ東北 明日から私たちができる123の復興のカタチ”となっています。復興支援にかかわりたいと思っていても方法がわからず関われない人がたくさんいると思います。だから私たちはこの本を通して多くの人たちに復興支援の方法をわかってもらい、それを実践してもらいたいと考えています。最後に、この本を通して元がとれる自信があります。絶対に元が取れると思っています。だからたくさん支援してください（笑）ぜひ私たちに力を貸してください。こうしたほうがいいよとかアドバイスがあればお願いします。」

HABATAKIシンポジウム② 復興案発表

◆活動をつなげるために!



「HABATAKI村プロジェクト」は、サポートアワーキッズの活動が7年後の2020年に終わってしまうので、その活動を引き継いでいこうという思いから、活動拠点・兼・避難所、および防災教室を開催する施設として、「HABATAKI村」を作るという大規模なプロジェクトを計画しています。

「ワールドグッツ」というプロジェクトです。僕たちは防災グッズを半年後に作るということを目指して頑張っています。被災した僕達だからこそ分かる必要なものを揃えて、これから災害が会った時に使えるような防災グッズを作りたいです。



◆アイデアをつなげよう。



「いままで各プロジェクトが、8つが10月から走ってきたわけなんですけど、子どもたち自身が『ココとココは、なんかちょっと繋がる場所があるね』と、底上げしていくために気づいたグループがいくつかありました。

私たちは、交流会を開くのに施設があるとなった時に、情報交換の場に「HABATAKI村」があればいいなと思い、連携して行事ができればいいなと思っていました。



「HABATAKI村は拠点、ハードを作りたい。一方、はそういう国際交流が出来るイベント、コンテンツ、ソフトを作りたい。そういうところが連携してできるということに気づいたようです。他には？」

私たち本作りは、ゆるキャラを本の表紙か裏表紙に採用させて頂きたいなと思っていました。



「さっそくゆるキャラの採用先が決まりました(笑) ひとつは防災グッズにゆるキャラがぽん、とあることでしょう。1つは、本にゆるキャラが見られそうです」

フォトレポート①

◆東北福祉大の各所に貼って頂いた告知ポスター



◆生徒主催のHABATAKI写真展



◆生徒による発表の様子



◆支援者の皆様にも多数ご参加いただきました



フォトレポート②

◆支援者、各国大使からのビデオメッセージ



◆X'mas Special LIVE



◆懇親会の様子



◆支援者の皆様からご提供いただいた菓子、飲料類



保護者会／HABATAKI研修

◆保護者会

今年度の活動報告と、保護者のネットワークづくりを目的に第2回保護者会を開催。活動に対する想いや、帰国後の生徒の様子を共有する有意義な場となりました。



◆親がどんなに思っているにしても子どもにしてあげられないことをSOKは子ども達に沢山の経験をさせてくれた。同世代の子どもを持つ保護者にも、安心して任せられることを伝える協力をしていきたい。

◆私ができることは、地元の人たちにSOKの活動を広めることだと思っている。ボランティアが必要な時は可能な限り協力したいと思い実際に勝手に募集広告をプリントアウトして地元の中学校・高校へ配布している。今後もお手伝いしていきたい。



◆自分の息子は、フランスへ行かせてもらった。滞在中に恩師に出した1枚のはがきがきっかけとなり卒業した小学校の子ども達に体験談を話すことができた。高価なお土産よりも1枚のはがきの方が価値があると実感している。

◆進学高校に在学中に海外へ行く機会に恵まれ、帰国後の進路や選択にかなり影響があった。実際に、国立大への進学等に拘らなく自分が勉強したいことを考えて、進むことになった。

◆HABATAKI研修

生徒発案による「海外と復興をテーマに復興について考える研修」の第2回目を実施。専門家の指導のもと、具体的なプロジェクトの推進方法などについて議論。

【実例紹介】ワールドグッズプロジェクト



「Support Our Kidsの活動をより多くの人に伝えること」「防災グッズをより身近に感じてもらうこと」を狙いに、活動のシンボルとなり、また防災グッズに興味を持ってもらえるようなキャラクターを提案。「HABATAKI」をキーワードに、議論を重ね鳥とクマの2案に絞り、リユニオンに集まった200名にプレゼン。結果、「わかりやすい」という理由から、鳥のキャラクターが票を集め、キャラクターは鳥に決定。今後は、キャラクターを使用していただく団体や、実際に販売する防災グッズについて考えていく。

TBS、TBC、TOKYO FM、河北新報の4社に、取材していただきました。

【2013年】

12月22日 夕方～夜
TBC東北放送 ニュース

12月24日 am8:00～8:30
TBS「朝ズバッ！」

【2014年】

1月6～8日 am6:30～6:40
TOKYO FM系全国38局FM「クロノス～LOVE&HOPE～」

LOVE & HOPE
～ヒューマンケアプロジェクト～

TOKYO FMとJFN38局が、東日本大震災で被災された方、心と体のケアを目指して支援活動を展開しています。いままで多くのケアとサポートを通じて取進まれた内容をご紹介します。あなたからのメッセージ、ご意見もお待ちしております。

★毎週月曜～金曜 6:30～6:40オンエア

パーソナリティ：中西哲生 高橋乃登

MESSAGE
メッセージ、ご意見はこちらから

New Entry
1月9日 同季動員いまわらぬ石巻市 その1
1月18日 サポートアワーキッズ「HABATAKIプロジェクト」その3
1月27日 サポートアワーキッズ「HABATAKIプロジェクト」その2
1月28日 サポートアワーキッズ「HABATAKIプロジェクト」その1
1月29日 藤原・友田の獅子祭り

Archive
2014年01月の記事一覧
2013年12月の記事一覧
2013年11月の記事一覧
2013年10月の記事一覧
2013年09月の記事一覧
2013年08月の記事一覧
2013年07月の記事一覧
2013年06月の記事一覧
2013年05月の記事一覧
2013年04月の記事一覧
2013年03月の記事一覧

留学成果 復興に生かす
仙台 被災中高生70人報告会

海外留学の成果を報告する高校生

東日本大震災で被災した中高生の海外留学を支援しているサポート・アイ（ははたき）・翔を（東京）は22日、仙台市青葉区の東北福祉大で、国に帰国留学した70人の中高生が利用した。2011年に始まったプロジェクトは被災した学生たちの自立支援を目的に、復興案も披露した。自らの復興案も披露した。プロジェクトは被災した学生たちの自立支援を目的に、2011年に始まり、これまで70人の中高生が利用した。

米国東海岸に行った泉高（仙台市泉区）1年菅原渉君は震災時の経験を英語で発表したことを紹介し「震災を教訓とした、風化させないための海外への情報発信の力になりたい」と話した。生徒らは復興の象徴となるテーマパークの建設や防災グッズ開発など独自の復興案も披露した。

河北新報

TOKYO FM クロノス

第2回 Support Our Kidsリユニオン〜翔・HABATAKI〜

- 主 催：Support Our Kids実行委員会
- 共 催：一般社団法人3.11震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構
- 特別協力：東北福祉大学

◆「Support Our Kids」発起人会

- 青島 俊徳 (タイムアウト in NZ 創設者)
- 赤井 勝 (花人)
- 赤木 弘喜 (シビックプライド株式会社 代表取締役社長)
- 秋元 康 (作詞家)
- 浅野 秀則 (株式会社フォーシーズ 代表取締役会長 兼 CEO)
- 天井 次夫 (株式会社経営戦略合同事務所 代表取締役会長)
- 有森 裕子 (NPO法人ハートオブゴールド 代表理事)
- アルン・ナンギア (ナショナルオーストラリア銀行 日本代表)
- イアン・ケネディー (前・駐ニュージーランド大使館 特命全權大使)
- 石田 純哉 (株式会社ゴルフパートナー 代表取締役社長)
- 井田 義則 (いすゞ自動車株式会社 特別相談役)
- 伊東 信一郎 (ANAホールディングス株式会社 代表取締役社長)
- 井上 彪 (三菱食品株式会社 代表取締役社長)
- 井上 弘 (株式会社東京放送ホールディングス 代表取締役会長)
- 岩崎 安利 (ビッグホリデー株式会社 代表取締役社長)
- 宇佐美 三郎 (株式会社宇佐美鉱油 代表取締役社長)
- 氏家 正道 (フェデラル エクスプレス 北太平洋地区担当副社長)
- エド・オーバリー (前・ニュージーランド航空 日本・韓国地区 支社長)
- 大里 洋吉 (株式会社アミューズ 代表取締役会長)
- 大日向 由香里 (株式会社工コLOVE 代表取締役)
- 岡田 佑 (宝自動車交通㈱ 代表取締役社長)
- 垣添 直也 (元・日本水産株式会社 代表取締役社長執行役員)
- 加藤 功時 (国際ロータリー第2750地区 東京ロータリー・クラブ 2013-2014年度 会長)
- 鎌田 隆介 (株式会社アコーディア・ゴルフ 代表取締役社長)
- 河相 周夫 (外務省 外務事務次官)
- 河田 聡史 (SBIファーマ株式会社 代表取締役 執行役員COO)
- 河内 宏之 (株式会社アカデミー 代表取締役社長)
- 河村 守康 (株式会社虎ノ門美業館 代表取締役)
- 北牧 裕幸 (株式会社キューブ 代表取締役社長)
- 金城 誠 (アンスコフーズ株式会社 代表取締役社長)
- 草間 吉夫 (高萩市 市長)
- クリスチャン・マセ (駐日フランス大使館 特命全權大使)
- 水栖 宏二 (アゼリールグループ 理事長)
- 小園 文典 (株式会社協和エクスポート 代表取締役社長)
- 児玉 守弘 (株式会社日音 相談役)
- 後藤 昌 (東京メトロポリタンテレビジョン株式会社 代表取締役会長)
- 小林 哲也 (近畿日本鉄道株式会社 取締役社長)
- 小巻 亜矢 (NPO法人ハローロドリム実行委員会 代表理事)
- 小宮山 悟 (野球評論家)
- サー・デビッド・ウォレン (前・英国大使館 特命全權大使)
- 齋藤 真嗣 (ニューヨーク州 医師、腫瘍内科 感染症専門医)
- 三枝 成彰 (一般社団法人3.11震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構 会長)
- 坂井 秀行 (IMG 日本支社 パイス プレジデント ビジネス ディベロップメント)
- 桜井 正光 (株式会社リコー 特別顧問)
- 迫本 淳一 (松竹株式会社 代表取締役社長)
- 塚塚 建次郎 (ラードライバー)
- 芝 幸太郎 (株式会社オフィスフォーティエイト 代表取締役社長)
- 柴 俊夫 (一般社団法人 こどものための楽基金 理事長、俳優)
- 渋谷 弘延 (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 理事)
- 島田 亨 (楽天株式会社 取締役常務執行役員 CMO)
- ジャックK. 坂崎 (90 Plus Wine Club 代表)
- シャノン・ウォーカー (前・ニュージーランド政府観光局 PRエグゼクティブ)
- ショーン・コンロイ (前・ニュージーランド貿易経済促進庁 公使 日本・韓国地域局長)
- ジョン・V・ルース (前・駐米米国大使)
- ジョナサン・T・フリード (前・駐日カナダ大使館 特命全權大使)
- ジョン・カーワン (前・ラグビー日本代表ヘッドコーチ)
- ジョン・ニアリー (駐日アイルランド大使館 特命全權大使)
- ジョン・ドエディ (タイムアウト in NZ 設立者 テラスタウンズ リゾート マーケティング部長)
- ジョン・ハンドルビー (ビーフアンドラム ニュージーランド 日本代表)
- 白石 康次郎 (海洋冒険家)
- 白石 徳生 (株式会社ベネフィット・ワン 代表取締役社長)
- 杉田 真志 (株式会社エス・ワイ・エス 代表取締役)
- 関 正樹 (関商事株式会社 代表取締役社長)
- 高橋 利弘 (前ニュージーランド大使)
- 田川 博己 (株式会社ジェイティービー 代表取締役社長)
- 館 ひろし (俳優)
- 田辺 善仁 (株式会社工フエム大阪 代表取締役社長)
- 玉井 義田 (あしなが育英会 会長)
- 田村 隆 (つぎき田村 三代目)
- 長命 健志 (株式会社エイチ・エル・シー 取締役 海外戦略事業担当)
- 塚原 光男 (ロンドンオリンピック日本選手団 団長)
- 辻 信太郎 (株式会社サンリオ 代表取締役社長)
- 坪田 信義 (クラブマスター)
- ディーン・サドラー (アド・ネットワークス株式会社 代表取締役 兼 最高経営責任者)
- ティム・ウィリアムズ (ウイン・イン・スタイル株式会社 取締役会長)
- デボラ・ヘイデン (前・クレアプ・ギャビン・アンダーソン 日本マネージング・パートナー)
- 寺田 隆次郎 (レーシングドライバー)
- 鳥原 光憲 (東京ガス株式会社 取締役会長)
- オナコ グラ ヴアレ (ダラ・ヴァレ・ヴィンヤード オーナー)
- 鍋島 英幸 (三菱商事株式会社 代表取締役 副社長執行役員)
- ニナM. 坂崎 (JSMコンサルティング株式会社 代表取締役)
- 新山 明美 (有明マック マック 代表取締役)
- 西本 博嗣 (ノーリツ銅機株式会社 代表取締役社長)
- 西山 広文 (株式会社読売情報開発 代表取締役社長)
- 野田 勝彦 (共立印刷株式会社 代表取締役会長)
- 羽生 裕子 (カナルカフェ オーナー)
- 羽生 善治 (将棋士 二冠)
- 原田 真二 (ミュージシャン)
- 林 梓 (前ベルギー王国大使)
- 肥後 かおり (女子プロゴルファー)
- 日野 皓正 (ジャストランベッター)
- 平野 昌和 (公益財団法人 ラボ国際交流センター 理事長)
- 富木 道信 (株式会社工フエム東京 代表取締役会長)
- 福田 康夫 (第91代内閣総理大臣 日本・ニュージーランド議員連盟理事長)
- ダニエル 藤井 (ブラックストーン・グループ・ジャパン株式会社 代表取締役)
- ブルース・ミヨウ (駐日オーストラリア大使館 特命全權大使)
- ポビエ・バレンタイン (前・ポストン・レッドソックス監督)
- 古田 貴之 (千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 所長)
- 本庄 竜介 (グリーンコア株式会社 代表取締役)
- マーク・クナリー (フオンテラジャパン株式会社 代表取締役社長)
- マーク・シンクレア (駐日ニュージーランド大使館 特命全權大使)
- マイク・ノナー (ラグビー ニュージーランド代表 オールブラックス)
- マイケル・ラーチ (エボリューションキャピタルマネジメント 代表)
- 前田 伸 (日本電波塔株式会社 代表取締役)
- 松岡 宏泰 (東宝東和株式会社 代表取締役社長)
- 松沢 成文 (前・神奈川県知事)
- 松下 庄一 (株式会社松勇 代表取締役社長)
- 本庄 知宏 (宗道造形芸術大学 教授)
- 眞原 健一 (株式会社経営戦略合同事務所 代表取締役社長)
- マリ・クリステアス (異文化コミュニケーション 関連イベント親善大使)
- 丸山 邦治 (株式会社丸山海苔店 代表取締役社長)
- ミア・エフワース (リンコープ・ウェルスマネジメント・リミテッド ジェネラル・マネージャー)
- 村上 聖則 (元・メジャーリーガー)
- 森 浩美 (作詞家・作家、日本ドッジボール協会 最高顧問)
- 森川 由加里 (ミュージシャン)
- 森 浩生 (森ビル株式会社 取締役専務執行役員)
- 森 喜朗 (第85代・第86代内閣総理大臣 日本ラグビーフットボール協会会長)
- ゲリー・S. 森脇 (ニューヨーク日系人会 会長)
- 森 三十二 (外務省 顧問)
- 山崎 直樹 (株式会社アップフロントグループ 代表取締役会長)
- ユーゼン・チェン (セスプリ インターナショナル ジャパン株式会社 代表取締役社長)
- 吉田 恒雄 (特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク 理事長)
- 吉田 康 (株式会社ブルボ 代表取締役社長)
- 吉野 伊左衛 (吉本興業株式会社 代表取締役会長)
- 米村 でんじろう (米村でんじろうライオンズクラブアクション 代表)
- リック・リーバウト (駐日ベルギー王国大使館 特命全權大使)
- ルー・トンソーン (エッセンシャルグループ マネージングディレクター)
- ロバート・ペル (オーストラリア・ニュージーランド銀行 東京支店 CEO)
- 脇屋 友詞 (Wakiya 笑笑茶楼 オーナーシェフ)
- 和田 修一 (株式会社和田 代表取締役)
- 秋澤 志高 (特定非営利活動法人 次代の創造工房 理事長)

*2013年12月22日 現在 (五十音順・敬称略)

◆「Support Our Kids」協力・後援団体

- | | | | |
|--|---|---|---|
| <p>アイルランド大使館</p> <p>アメリカ大使館</p> <p>英国大使館</p> <p>オーストラリア大使館</p> <p>カナダ大使館</p> <p>ニュージーランド大使館</p> <p>ベルギー王国大使館</p> <p>フランス大使館</p> <p>外務省</p> <p>首相官邸</p> | <p>一般社団法人3.11震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構</p> <p>90 Plus Wine Club</p> <p>ISISGreenwich</p> <p>RHトラベラー株式会社</p> <p>赤井勝装花の会</p> <p>株式会社アカデミー</p> <p>アゼリールグループ</p> <p>アド・ネットワークス株式会社</p> <p>アトム通貨実行委員会仙台支部</p> <p>アルパインツアーサービス株式会社</p> <p>e.i.l.</p> <p>株式会社伊藤園</p> <p>井原水産株式会社</p> <p>ANZCCJ</p> <p>ACO</p> <p>Asia Matters</p> <p>エールフランス</p> <p>株式会社エス・ワイ・エス</p> <p>株式会社オフィスフォーティエイト</p> <p>カナルカフェ</p> <p>共立印刷株式会社</p> <p>グリーンコア株式会社</p> <p>株式会社経営戦略合同事務所</p> <p>一般社団法人こどものための楽基金</p> <p>株式会社サマンサバサジャパンリミテッド</p> | <p>七ヶ浜国際村</p> <p>JSMコンサルティング株式会社</p> <p>ジャボネード</p> <p>首相官邸</p> <p>新企画</p> <p>公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン</p> <p>関商事株式会社</p> <p>仙台ニュージーランド協会</p> <p>全日本空輸株式会社</p> <p>DARGAVILL HIGH SCHOOL</p> <p>株式会社竹中庭園緑化</p> <p>つぎき田村</p> <p>TBS</p> <p>TBC東北放送</p> <p>テンフス株式会社</p> <p>TOKYO FM</p> <p>東北福祉大学</p> <p>株式会社東京ドームホテル</p> <p>トヨタ自動車株式会社</p> <p>NZEDU</p> <p>ニュージーランド航空</p> <p>ニュージーランド政府観光局</p> <p>nz-navi.com</p> <p>ニューヨーク日系人会</p> <p>ニューヨークメロン銀行</p> | <p>Bancorp Wealth Management Limited</p> <p>NPO法人日本オリンピック・アカデミー</p> <p>認定NPO法人日本ハビタット協会</p> <p>NPO法人日本舞踊芸術文化協会</p> <p>日本ミシュラン・タイヤ株式会社</p> <p>ネスグローバル株式会社</p> <p>ノーリツ銅機株式会社</p> <p>ビッグホリデー株式会社</p> <p>株式会社 ブーランジェリーエリックカイザージャパン</p> <p>富士スピードウェイ株式会社</p> <p>株式会社ブルボ</p> <p>株式会社ブレイン</p> <p>MOUNT ALBERT GRAMMAR SCHOOL</p> <p>有限会社マックスベース&ステーション</p> <p>マツダ株式会社</p> <p>株式会社マールト</p> <p>三菱商事株式会社</p> <p>三菱食品株式会社</p> <p>吉本興業株式会社</p> <p>公益財団法人ラボ国際交流センター</p> <p>Rotary Club of Toronto - Forest Hill</p> <p>Wakiyaグループ</p> <p>株式会社和田</p> <p>ヒーローズエデュテイメント株式会社</p> <p>*その他多くの個人の皆様からご支援頂いております</p> <p>*2013年12月22日 現在 (五十音順・敬称略)</p> |
|--|---|---|---|

ご支援・ご協力ありがとうございます

〈Support Our Kidsに関するお問い合わせ先〉

Support Our Kids事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-12-6 ミツリ麹町ビル3F (NPO法人次代の創造工房内)

電話:03-6272-6252 メール: info@jidai.or.jp

HP : http://support-our-kids.org/ja/ facebook : https://www.facebook.com/jidai.or.jp